

一宮市立今伊勢小学校いじめ防止基本方針（令和6年度）

1 いじめの防止についての基本的な考え方

本校の教育目標は、「心身とも健康で、確かな力と豊かな心を持った今伊勢っ子を育成する。」である。

そして、その教育目標の中の「豊かな心を持った今伊勢っ子の育成」を実現するために、「道徳の授業を中心に教育活動全体を通して、道徳性の向上を図る。」「『明るくあいさつ・返事』と『くつそろえ』を重点とし、基本的な生活習慣を身につけさせる。」「子どもを主体とした学校行事や体験活動の充実を図り、感動を味わえるようにするとともに、人間関係力を向上させる。」「『心のアンケート』をもとに面接相談を行ったり、児童一日見守り日に取り組んだりしていじめの未然防止、早期発見、早期解決に努める。」を重点努力目標としている。さらに、本校のスローガンである「力いっぱい いい笑顔」のもと、だれもが笑顔でがんばることができる学校づくりに努める。

いじめは、いじめられた児童生徒の心身に深刻な影響を及ぼす許されない行為である。また、どの児童もいじめの被害者にも加害者にもなりうる。

これらの基本的な考えを基に、児童の尊厳を守り、いじめに向かわせないために、教職員が日頃からささいな兆候を見逃さないように努めるとともに、学校全体で組織的にいじめに対応していく。また、いじめの防止等の対策は、学校、家庭、地域住民その他の関係機関の連携の下に進めていく。

学校は、児童が教職員や周囲の友人との信頼関係の中で、安心・安全に生活できる場ではなくてはならない。そこで、児童一人一人が大切にされているという実感をもつとともに、互いに認め合える人間関係をつくり、集団の一員としての自覚と自信を身に付けることができる学校づくりに取り組んでいく。そうした中で、児童が自己肯定感や自己有用感を育み、仲間と共に人間的に成長できる魅力ある学校づくりを進める。

2 いじめ防止対策組織

「いじめ・不登校対策委員会」を設置し、いじめの未然防止に取り組むとともに、いじめのささいな兆候や懸念、児童からの訴えを、特定の教員が抱え込むことのないよう、組織として対応する。

「いじめ・不登校対策委員会」は校長、教頭、教務主任、校務主任、学年主任、生徒指導主任、いじめ等対策主任、不登校対策主任、養護教諭、県事務職員等で構成し、必要に応じて、スクールカウンセラー（以下SC）、スクールソーシャルワーカー（以下SSW）を加える。

（1）「いじめ防止対策組織」の役割

ア 「学校いじめ防止基本方針」に基づく取組の実施と進捗状況の確認

- ・「学校いじめ防止基本方針」に基づき、組織的な対応を図る。
- ・教職員による取組評価・保護者による学校評価アンケートを行い、「いじめ・不登校対策委員会」及び「学校運営協議会」において、学校におけるいじめ防止対策を検証し、改善策を検討していく。
- ・「心のアンケート」を毎月実施し、それをもとに面接相談（教育相談）を行う。

イ 教職員への共通理解と意識啓発

- ・年度初めの職員会議で「学校いじめ防止基本方針」の周知を図り、教職員の共通理解を図る。
- ・心のアンケートや児童一日見守り日、面接相談の結果の集約・分析・対策の検討を行い、実効あるいじめ防止対策に努める。

ウ 児童や保護者、地域に対する情報発信と意識啓発

- ・随時、スクールカウンセラーだよりやホームページ等を通して、いじめ防止の取組状況を発信する。
- ・コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を活用して、地域全体のいじめ防止意識の向上に努める。

エ いじめに対する措置（いじめ事案への対応）

- ・いじめがあった場合、あるいはいじめの疑いがあるとの情報があった場合は、正確な事実の把握に努め、問題の解消にむけた指導・支援体制を組織する。
- ・事案への対応については、適切なメンバー構成を検討し、迅速かつ効果的に対応する。また、必要に応じて、外部の専門家、関係機関と連携して対応する。
- ・問題が解消したと判断した場合も、その後の児童の様子を見守り、継続的な指導・支援を行う。

3 いじめの防止等に関する具体的な取組

(1) いじめの未然防止の取組

- ア 児童どうしの関わりを大切にし、互いに認め合い、ともに成長していく学級づくりを進める。
- ・心のアンケートや HyperQ-U（4～6年）、面接相談を実施して、学級経営を見直し、よりよい学級づくりに努める。
 - ・いじめの状況やその後の児童どうしの関わりについて把握できるように努める。
 - ・ピア・サポート活動を取り入れ、人間関係を豊かにするための学習の場を設定する。
- イ よくわかる授業を展開し、個々に自己肯定感と充実感を味わわせる。
- ウ いじめが心配される事案があった場合にもいじめの可能性を考え、周り又は全員にいじめは許されない行為であることを呼びかけ、いじめを見過ごさない、生み出さない集団づくりを行う。
- エ 教育活動全体を通して、道徳教育・人権教育の充実を図るとともに、体験活動を推進し、命の大切さ、相手を思いやる心の醸成を図る。
- オ 集会等でいじめ未然防止の校長講話を行う。
- カ 児童の話し合い活動などの主体的な活動を年間計画に位置づけて実施し、いじめ防止の意識を高める。
- キ ICT支援員と連携し、情報モラル教育等を推進する。児童がネットの正しい利用とマナーについての理解を深め、「ネット上のいじめ」の被害者、加害者とならないよう継続的に指導する。

(2) いじめの早期発見の取組

- ア 日頃の児童のささいな変化や気になる行為に関して、情報を共有し、組織的に見守り・支援できる全校体制を整える。
- イ 心のアンケート、面接相談の定期的な実施（各学期1回）や、児童一日見守り日の実施を通して、児童の小さなサインを見逃さないように努める。
- ウ 過去にいじめ被害にあった児童に対し、継続的な見守りを行う。
- エ 登下校時のみまもり隊や立ち番の保護者から情報を得るように努める。
- オ 児童が相談しやすい環境を整える。
 - ・教師と児童との温かい人間関係づくりや、保護者との信頼関係づくりに努める。
 - ・南舎1階の保健室前に相談箱等を設置し、児童が担任以外の職員にも相談できるようにする。
 - ・県スクールカウンセラーの相談日を全家庭に紹介（配付）する。
 - ・電話相談窓口の一覧を全家庭に紹介（配付）し、ホームページに掲載する。
- カ Q-Uの分析について研修会を行い、いじめの早期発見に努める。

(3) いじめに対する措置

- ア いじめの発見・通報を受けたら「いじめ・不登校対策委員会」等を中心に組織的に対応する。
- イ 被害児童を守り通すという姿勢で対応する。
- ウ 加害児童には教育的配慮のもと、毅然とした姿勢で指導や支援を行う。
- エ 教職員の共通理解、保護者の協力、スクールカウンセラーや、警察署、児童相談センター等の関係機関との連携のもとで取り組む。
- オ 「ネット上のいじめ」への対応については、必要に応じて警察署や法務局等とも連携して行う。

4 重大事態への対応

- (1) 重大事態が生じた場合は、速やかに教育委員会に報告をし、「重大事態対応フロー図」に基づいて対応する。
- (2) 学校が事実に関する調査を実施する場合は、「いじめ・不登校対策委員会」を開催し、事案に応じて適切な専門家を加えるなどして対応するとともに、関係諸機関との連携を図る。
- (3) 調査結果については、被害児童、保護者に対して適切に情報を提供する。

5 学校の取組に対する検証・見直し

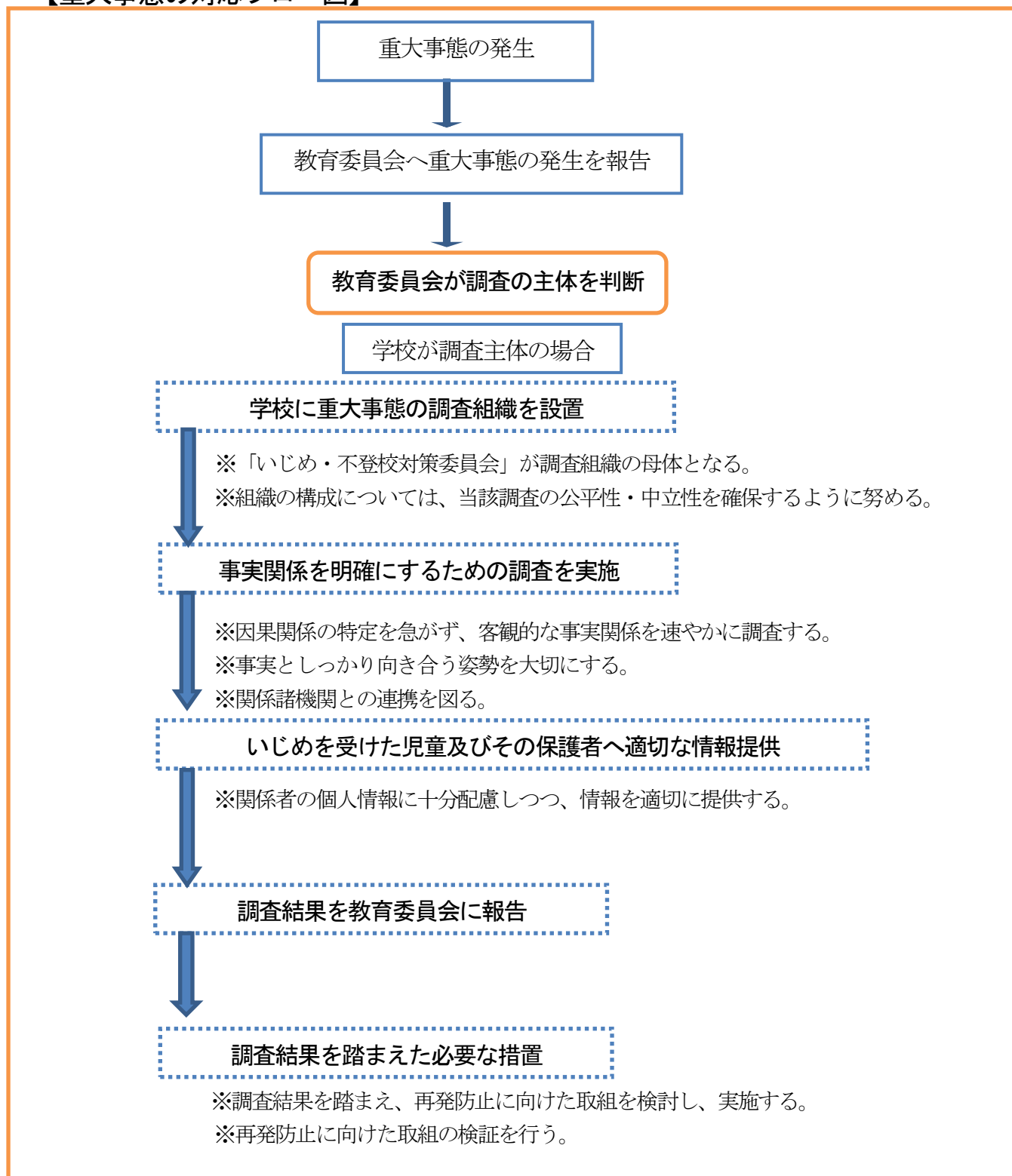
- (1) 学校いじめ防止基本方針をはじめとするいじめ防止の取組については、PDCAサイクルで見直し、実効性のある取組となるよう努める。
- (2) いじめに関する項目を盛り込んだ、教職員による取組評価・保護者による学校評価アンケートを実施し、「いじめ・不登校対策委員会」及び「学校運営協議会」において、いじめに関する取組の検証を行う。

6 その他

- (1) 「いじめ対策ハンドブック」（一宮市教育委員会・一宮市いじめ対策推進委員会作成）を参考にいじめ対策に取り組む。

- (2) いじめ対策に関する校内研修を実施したり、教育委員会等が主催する講演会や事例研究会に関係職員が参加したりするなど、児童理解を深め、いじめ未然防止や対応についての教職員の資質向上に努める。
- (3) 「学校いじめ防止基本方針」をホームページに掲載する。
- (4) 長期休業中の事前・事後指導を行い、休業中のいじめ防止に取り組む。

【重大事態の対応フロー図】



＜一宮市立今伊勢小学校いじめ防止取組の年間計画＞

	「いじめ・不登校対策委員会」	未然防止の取組	早期発見の取組	保護者・地域との連携
4月	○「学校いじめ防止基本方針」の内容の確認 ○情報共有	○学級開き、学年開き ○校長講話 ○通学団会 ○相談室やＳＣの児童、保護者への周知	○いじめ相談窓口の児童、保護者への周知 ○身体測定 ○「心のアンケート」	○学校公開 ○1年保護者希望による懇談会 ○学校運営協議会での「学校いじめ防止基本方針」の説明
5月	○情報共有	○緑の羽根募金活動 ○ピア・サポート活動	○「心のアンケート」 ○HyperQ-U (4～6年) ○面接相談週間	○PTA委員総会での情報交換 ○あいさつ運動 ○公開授業 ○引き渡し下校訓練
6月	○情報共有	○保健指導（心と体の成長）	○「心のアンケート」	○みまもり隊情報交換会 ○健全育成会パトロール
7月	○情報共有 ○現職教育「Q-U分析①」	○校長講話 ○セルフディフェンス講座（予定） ○通学団会 ○野外教育活動（5年）	○「心のアンケート」	○個人懇談会 ○学校運営協議会でのいじめの現状説明
8月	○現職教育「校外研修内容の伝達」			
9月	○現職研修「事例研究」 ○情報共有	○校長講話 ○ピア・サポート活動	○身体測定 ○「心のアンケート」	○あいさつ運動
10月	○全教職員による「取組評価アンケート」の実施→検証	○運動会 ○修学旅行（6年）	○「心のアンケート」 ○HyperQ-U (4～6年) ○面接相談週間	○ごみゼロ運動 ○学校運営協議会委員への学校行事公開
11月	○情報共有	○校外学習（1～4年） ○福祉実践教室（5年） ○いのちの授業（5年） ○芸術鑑賞会	○「心のアンケート」	○学校運営協議会委員への授業公開 ○学校運営協議会でのいじめの現状説明 ○みまもり隊情報交換会
12月	○情報共有 ○現職教育「Q-U分析②」	○学校集会校長講話 ○人権擁護委員を招聘しての人権集会 ○児童によるいじめ撲滅啓発活動 ○薬物乱用防止教室（6年） ○赤い羽根募金活動 ○通学団会	○「心のアンケート」	○個人懇談会 ○健全育成会パトロール

1月	○情報共有	○保健指導（命の大切さ） ○ピア・サポート活動	○身体測定 ○「心のアンケート」 ○面接相談週間	○あいさつ運動 ○PTA委員総会での情報交換
2月	○全教職員による「取組評価アンケート」の実施→検証 ○情報共有	○なかよし遊び （異年齢集団活動）	○「心のアンケート」	○小学校入学説明会 ○学校運営協議会の学校評価の分析 ○みまもり隊情報交換会・感謝の会
3月	○評価をもとに学校運営協議会で「基本方針」の見直し ○情報共有	○6年生を送る会 ○通学団会	○「心のアンケート」	○中学校入学説明会 （児童対象）
通年	○校内のいじめに関する情報の収集・共有 ○職員会議での情報交換会 ○対応策の検討	○児童一日見守り日（毎月） ○集会における校長講話 ○道徳教育、体験活動の充実 ○わかる授業の充実 ○情報モラル指導 ○通学班長日誌点検 （週に1回）	○健康観察の実施 ○県SCによる相談 ○相談箱の活用	○あいさつの日 （月に1回） ○ホームページ

※いじめが発生した場合の対応については、関係する職員で共通理解を図りながら、対応していく。